西高殿若葉幼稚園 令和５年度 自己評価

１．本園の教育方針・教育目標

【教育方針】

人や生きものを慈しむ心、旺盛な好奇心、物事に取り組む意欲、最後まであきらめない粘り強い心。

集団の中での遊びや保育、またその延長線上にある行事などを通じ、子どもと保育者が日々過ごし、体験してゆく中で、人とのかかわり合いやルールを学びながら、子ども自らが育とうとする力を、感じ合い、喜び合いながら、心身ともに健やかな幼児期を過ごせるよう保育を行う。

【教育目標】

〇健康でのびのびと活動する子ども
〇「きれい」「ふしぎ」「四季」を感じ取ることのできる感性豊かな子ども
〇物事に一生けんめい取り組み、あきらめない心を持つ子ども
〇人の気持ちが理解できる、やさしい子ども
〇ルールを守り、仲よく遊べる子ども
に育ってゆけるよう、教職員一丸となって保育にあたる。

２．本年度、重点的に取り組む目標及び計画

・十分にあそびを体験させ、社会性、考える力の素地をつくる
・教員の資質向上と保育の質向上を更に高める
・子どもの情報を保護者と共有し、子ども理解、保育理解を深めていく
・子どもらしく充実した園生活を過ごせる環境づくりに努める

評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組みの状況
あそびの充実	幼稚園という人と人とが交わる場所、思い思いに好きな場所で好きな遊びに没頭できる時間をできるだけ多くつくる。たとえば、カリキュラムで決めていた予定であっても、天気が良く「気持ちがいい」と感じる場面では予定を変更し、外で思い切り体を動かして遊ぶ機会を作るなど、子どもにとって必要不可欠な「あそび」の機会を多く取り入れるよう心掛ける。
教員の資質向上と保育の質向上	教職員が園の教育理念・目標を知り、どのような目標をもとに保育を行っていくべきかを年度当初、学期ごとに話し合い、学年ごとでの計画と準備を行っているため学年間でのコミュニケーションは保たれている。研修受講による保育理論、保育スキルの向上、レポート報告を用いて自らが学んできたことを伝達研修として職員間で共有し、今後の保育にフィードバックし、保護者への子ども理解の情報提供につなげている。また、保育の進捗、保育の悩みなどについて教員個々と主幹教諭が定期的な話し合いの機会を設け、各学年がスムーズな連携が行えるよう調整を行う。
保護者への子ども理解の促進	子どものその日の出来事や報告を園と家庭が密に連携し、園と家庭が一体となった子育てを行う。日常の様子や取り組み、保育者の子どもへの思いなどをつづった自園ウェブサイトでの教員ブログやインスタグラムなどを利用した情報発信など、園と家庭が一体となって子どもの育ちを日常的に可視化できる最良のツールであることを踏まえ、園における子どもの心情や心身の成長過程などを保護者と共有できるものであることから積極的な情報発信を心がる。
幼児の生活にふさわしい環境づくり	幼児期の成長と学びについては直接体験に勝るものはなく、子どもが直接目で見て触れて、考えたり感じたりすることが日常的に体験できる環境を大切にしている。例えば服など多少汚れるが砂場での水を溜めて水の流れを作って遊んだり、手と指先の感覚を使って泥だんごづくりを楽しんだり、園庭で四季折々に咲く草花を使った押し花や色水づくりなど、子どもたちが主体的に体験し、日常的に遊びから色々なことを学んだり、新しい発見ができるよう心がけている。また、保育室や園舎内においては、子どもが色々な想像力を駆り立て、毎日幼稚園に行きたいといったワクワク感をもって過ごせるような環境を配慮する。

３．学校評価の目標・計画の総合的な評価

あそびの充実、子育て支援ともに、子どもの育ちにとって幼稚園という保育環境が影響するところは非常に大きく「すべては子どものより良い育ちのため」という理念のもと、より良い環境をめざす意識を持ち続けるべきであることが重要と考える。今年度、活かしきれてなかった部分を真摯に受け止め、次年度は更に充実したものとなるよう取り組みを行う。

４．今後取り組むべき課題と充実すべき課題

【新型コロナウイルス５類移行に伴う教育・保育のあり方】

長らく続いたコロナ禍が５類に移行し、４年ぶりにこれまでの日常を取り戻すこととなったが、園においても諸活動においてあらゆる場面で保育や行事の計画を変更したり、あらゆる場面で感染対策を講じ、ディスタンスの確保、マスクの着用による相手の表情の読み取りにくさ、食事の時の黙食、パーティションの設置など、人と人とのかかわりを分断しかねない状況から解放され、子ども、保育者、保護者とも良好な関係を築くことができた。衛生面においては長らくのマスク生活による免疫の低下が見られ、５類移行後はインフルエンザ等、従来の感染症にかかる子どもが多く見られた。これまでの感染対策の経験を生かし、適宜、コロナ時の対応に切り替えるなど適切な対応が行えた。行事面においては、コロナにより実施スタイルや内容が変わった行事、復活した行事などがあったが、子どもの育ちの成果としての行事をより良いものにしていくため、プロセスに重きを置きながら実施する。

【保育の質向上】

自園の良い部分や課題点を再認識し、職員全員がそれらを共通理解したうえで、保育スキルの向上を目的とするだけではなく、日々行う保育が子どもの育ちにどのようにつながって行くのかを常に意識づける。

保育の質、教育力向上のために、研修への参加をより積極的に行っていくべきと考えているが、放課後の配置が手薄になるため、配置を考え研修計画を立てていかなければならない。

【子育て支援の充実】

従前より行っている子育て支援のための園庭開放を引き続き行うが、人的な配置、時間の制約等平日開催が厳しい状況であったが、今後は平日開催を行い、より多い子育て支援の機会を多く持てるようにする。

また、在園児保護者のみならず、地域の子育て中の保護者など、臨床心理士のサポートを得ながら、クライアントに共感し、不安感の払拭と子育てや保育の希望へとつなげていくことは大変重要であると考える。また、発達に関わる事案の際は、関係機関へとつなぐ橋渡しになるよう取り組んでいく。また、電話による教育（子育て）相談も随時行っていく

６．学校関係者の評価

令和５年度は長らく続いた新型コロナウイルスから解放された一年となり、これまでの厳しい状況下から解放された先生方、子どもたちともにイキイキと活動する姿が見られました。この一年間、一人ひとりの子どもにしっかりと向き合い、丁寧に保育を行ってきたことは幼児期の育ちの大きな支えとなったものと思われます。

これからも幼児期の教育・保育の新たな可能性を追求し、幼稚園が子ども、保護者にとってかけがえのない場であることを切に願います。

７．財務状況

公認会計士の監査により、適正に運営されていると認められている。